

行政視察報告書

平成30年10月15日

会 派 名 江南クラブ
会派代表者 福田 三千男

(参加者：福田三千男、宮地友治、古池勝英、牧野圭佑、伊神克寿、稲山明敏、東猴史紘)
行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	平成30年10月11日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分
視 察 先	長野県上田市
視察項目	上田市中心市街地活性化基本計画について

②

年月日	平成30年10月12日(金)
視察時間	午前10時00分～午前11時30分
視 察 先	長野県千曲市
視察項目	千曲川地域ブランドフェア(千曲川マルシェ)について

研修参加報告書

①

年月日	平成30年10月11日(木)
研修時間	午後1時30分～午後3時00分
研修場所	長野県上田市
研修内容	上田市中心市街地活性化基本計画について
■内容・所感 <p>上田市は、真田幸村のゆかりの地であり大河ドラマ「真田丸」で向上した知名度を確固たるものにするために、同市商工課がブランディング支援事業として、中小企業者等が伝統工芸品、特産品、農産物の加工品などの地域資源を活かし、信州上田ブランドの創出を試みている。</p> <p>ただし、大河ドラマ放映直後は同市を訪れる人々は多かったが、その後は再び放映以前の水準に戻ってしまい真田頼みの行政からの脱却を課題として担当者が指摘していた。上田市のまちづくりの考え方は、総合計画に基づく地域協議会の充実、地域自治センターの機能見直しなどで分権自治による地域づくりを進めるとともに、「自立と協同」、「循環と交流」、「創造と調和」を基本理念としたものである。</p> <p>つまり、江南市やその他一般の自治体のまちづくりの理念と相違はない。人口減少と少子高齢社会到来により、中心市街地にまちづくりの重点を置き、市街地の拡散を抑制するために都市機能を集約させる考え方は江南市と同じである。上田市中心市街地活性化基本計画では、まちなかレンタサイクル事業やテナント出展支援事業、上田駅前イルミネーション事業など中心市街地を活性化させる施策が並べられているが、それは江南市を含めどの自治体でも取り組んでいるオリジナリティのない施策である。</p> <p>よって上田市は、真田氏ゆかりの地（上田城跡地）という歴史資源をどこまで全国の歴史ファンや一般層にアピールできるかにかかっているのではないかと感じた。逆に江南市は「信長・吉乃」という小さな歴史資源はあるが、上田市をはじめとする本物の歴史の舞台ではないのでそこをアピールするのではなく、名古屋から20分という立地をアピールし、そこに通うサラリーマンをターゲットとして一層の住宅街を中心とした市街地の形成に力を注ぐしかないのか、と感じた。</p>	

行政視察報告書

②

年月日	平成30年10月12日(金)
視察時間	午前10時00分～午前11時30分
視察先	長野県千曲市
視察項目	千曲川地域ブランドフェア(千曲川マルシェ)について
■内容・所感 <p>千曲市は2015年に1市・2町が合併して誕生した新しい自治体である。よってロゴもそれに合わせて作られ、現代風のスタイリッシュなものであった。千曲市は江南市と同じく知名度の低さにあり、最初から千曲(ちくま)と読める人が少ないという課題があるという。</p> <p>そこで、「千曲ブランド」を作ることとなり、平成20年に産学官連携・千曲ブランド推進担当課が設置された。翌年、産業振興課と統合し、係が設置され、「千曲ブランド」が立ち上げられた。現在は、機構改革により、シティプロモーションを一元化することにより更に効果を得る目的で、平成29年度より観光交流課で推進している。</p> <p>ただし、同市だけでは情報発信の限界を感じたこともあり近隣自治体と連携し、千曲市のみで情報発信を行うだけでなく「千曲川」流域の市町村と協力して「千曲川」のイメージアップとご当地商品の情報発信をすることにし、千曲川流域の広域連携の下、千曲川地域ブランドフェア:千曲川マルシェを開催することになった。</p> <p>イメージ的には江南市民まつりのような会場で行うもので、飲食店を中心としたイベントである。千曲市単独ではなく、広域連携での主催なので県や各市町村による後援が得られている。来場者も10代から80代まで幅広い層が参加しているとのことで、市内44%、県外47%、県外9%である。</p> <p>江南市内の業者も江南スイーツなどを展開しているが、その知名度は決して高いとはいえない。千曲市のように、江南市単独ではなく、例えば木曾川をクローズアップして、近隣他市町と一緒にあってそれにまつわるご当地商品の情報発信をしていくという視点も必要と感じた。</p>	